



企画展「くらしのうつりかわりと道具」展示品紹介③

若い女性のおしゃれ サシコ

自分が持っている服の中で、新しいものは普段着、古くなったら仕事着にしています。仕事着のサシコは年中着ており、男性はシャツの上に膝上までの長さの「ミジカ」や膝下まで届く「長ツツレ」を着て、下衣には「モシキ（股引き）」をはいていました。手拭いでホオカブリをするが「ホッカブリ上手なエジマのジー」と評判になる人もいました。女性はシャツ（若い人は白い袖、年配の人は黒い）に「ソデナシ」を着て、股に布あてした「タツケ」をはき前掛け（前ダレ）を締め、頭にはフロシキをかぶっていました。



昔の衣服コーナーの様子



男性のホオカブリ



女性のフロシキかぶり

六ヶ所村教育委員会『昭和51年度
泊、出戸地区 民俗資料調査報告書』より転載



鮮やかなサシコが施された前掛け

前掛けはもともと着物の汚れを防ぐための作業着ですが、この前掛けは寄贈者の吉田アサさんが20歳の頃（約70年前）、お祭りの日に着用するために麻布に木綿糸のサシコを施してつくったものです。当時の若い女性のおしゃれだったそうです。

サシコは保温、補強のために施されたものがはじまり。津軽の「こぎん刺し」、南部の「菱刺し」、山形県庄内の「庄内刺し子」を「日本三大刺し子」と呼びます。



※郷土館は現在、臨時休館中です。開館は3月8日（火）を予定しております。最新情報はHP・SNSでご確認ください。